

提出日：令和 3 年 2 月 22 日
所 属： 獣医学部 獣医学科
氏 名： 市原 伸恒 職位： 准教授

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）				
獣医学科基礎獣医学系の教員として、1年次の獣医解剖学分野に関する教育活動を中心に行っている。主たる授業科目は2つの講義科目：【獣医解剖学Ⅰ】、【獣医解剖学Ⅱ】であり、加えて、いくつかの講義・実習の分担及び【卒業論文】の作成指導を行っている。				
科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医解剖学Ⅰ	獣医学科	必修	1年次	168
獣医解剖学Ⅱ	獣医学科	必修	1年次	158
獣医解剖学実習	獣医学科	必修	2年次	139
臨床解剖学	獣医学科	選択	4年次	109
2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）				
獣医学教育とは、学修すべき科目や内容が、個々に独立したものでなく、すなわち、1つの科目の履修を終えれば、その科目の内容に関する学習が完結するものではなく、体系づけられた教育、すなわち重複する内容を含む科目の、順次性をもった学修成果の積み重ねにより成立するものと考えている。低学年での学びが、高学年に担当されている科目の深い理解につながるため、獣医解剖学分野を含む低学年の教育では、6年間におよぶ獣医学教育を受けるための、確実な基礎学力固めが重要であることを常に念頭に置いている。獣医解剖学分野を中心とした低学年の学生教育を通して、高学年の授業を受講する際の学習効果をより高いものにするに及び獣医師国家試験に合格する学力を教授することに加え、表面的な文言の暗記だけにとどまらず、履修内容に、多方面からの視点（例えば、獣医解剖学分野であれば、系統発生学的な視点や、機能的な視点など）を交え、本質的に理解させる教育を行うことで、実践力の高い、問題解決能力のある人物の育成を目指している。さらに、卒業後の社会活動においても、まずは基礎や基本となることを十分踏まえた上で、より高度なことを実践するという考え方を身に付けた人物の育成を目指している。				
3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）				
2, で示した教育の理念を実現するためには、教員自身が、担当する授業の履修内容と、高学年での科目の履修内容との関係を常に把握していることが重要であると考えている。特に高学年での科目の内容は、新しい知見や技術の進歩により変化するものが多いことに留意している。獣医解剖学分野の授業内容に関わるような高学年の科目の教科書や、新しい知見や最新技術に関する記載のある書物や雑誌を精読することで、獣医解剖学分野の授業内容が、高学年				

で学ぶ科目の中で、どういう位置付けがされていて、何が重要視されているかを確認して、その内容を授業に組み込んでいる。低学年で学ぶ履修内容と高学年で学ぶ履修内容の関連を授業内で紹介して、理解させることが、基礎的な知識の積み重ねが、より高度なものごとの理解につながることや、幅広い視点をもつことの重要性を説く結果になると考えている。また、獣医師国家試験の出題傾向を踏まえ、頻出項目については、授業内で獣医師国家試験の過去問題も示しつつ、重点的に教育を行うことに取り組んでいる。Information and Communication Technology (ICT) の教育への活用にも、学生及び教員ともにストレスを感じない範囲で取り組み、Learning Management System (LMS) である學理を用いた教材配布や、令和2年度にはコロナ禍の影響もあり、google drive を用いた動画配信による復習も兼ねたオンデマンド授業を実施している。加えて、獣医解剖学分野での教育においては実践：試験機能を用いた学生自身による理解度チェックの実施を行い、また、6年次後期配当科目である総合獣医学履修生を対象に、同じく実践を用いた獣医師国家試験に向けての基礎的学力の確認チェックの場を提供している。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

①教育（授業，実習）の創意工夫（B）

履修生の好奇心をそそるような内容（言い換えると、動物に関わることで、日々、目にしていることや、遭遇するような事案）や、また、高学年でも役立つような臨床的な事項を交えた授業を、意識して行った。また、教科書以外の図や写真を、可能な限り、多く使用するように心がけ、履修生が履修内容（動物体内の構造）を、立体的にイメージしやすいような工夫をした。授業スライドでは、努めて、文字サイズが48pt以上の大きな文字を使用して、見やすく、1枚のスライドの容量を少なめにするすることで、履修生の集中力を高め、理解を深める工夫をした。

②学生の理解度の把握（C）

実践：試験機能を用いた理解度チェックを実施しているが、義務付けてではなく、また、成績評価に加えておらず、教員側での理解度の把握には用いていない。

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

実践：試験機能を用いて、毎回の授業後に、授業内容に沿った問題を設定することで、学生自身による理解度チェックができるようにして、自学自習を促した。また、オリエンテーション時には、授業内容の理解が難しい際に、履修生が自学自習しやすい、教科書よりも平易な書物を、複数、紹介した。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）

メールでの対応や、研究室に来室しての対応など、履修生が望む、いずれでも対応するようにして、コミュニケーションをはかった。

⑤双方向授業への工夫（C）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

担当している主要な必修科目（獣医師国家試験に出題される分野）の配当学年が初年次（1年次）ではあるが、授業内で、授業内容に関わる獣医師国家試験の過去問題を示したり、獣医師国家試験の頻出問題であることを紹介するなどして、低学年から獣医師国家試験に対する意識付けを行った。また、6年次後期配当の総合獣医学を分担して、獣医解剖学の頻出ポイントや重要項目の紹介を行った。加えて、授業を補う意味で、実践：試験を設定して、基礎的事項の確認チェックを行えるようにした。

5. 学生授業評価

① 授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

- ・ 定型文のアンケート：シラバスの利用状況が芳しくなかったため、対応方法を検討していたが、コロナ禍の影響で授業形態が大きく変わったこともあり、対応は出来なかった。
- ・ 自由コメント：寄せられたコメントのうち、教育効果があると考えられたものについては（配布プリントの行間を広くする等）、対応した。

② ①の結果はどうでしたか。

- ・ 定型文のアンケート：シラバスの利用状況が引き続き、芳しくなかった。
- ・ 自由コメント：今年度、同様な意見は無くなった。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

- ・ 定型文のアンケート：必要に応じて、対応方法を検討する予定である。
- ・ 自由コメント：引き続き、対応を続ける。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

現在、学生自身が履修内容の理解度を把握することが困難であることや、到達目標に達しているかを理解するために、実践：試験機能を活用して、履修者の学習ペースに応じて、理解度チェックの試験をいつでも、どこでも使用できるように設定している。引き続き、この取組を行うが、成績向上につながるような実施方法について再考して、必要に応じて、実施方法を改良していくことについて検討することを考えている。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

実践の理解度チェックに関しては、授業アンケートで、良い評価を得ている。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

授業改善につながると考える FD 研修会は配信動画視聴も含めて全て参加しており、他学や他教員の指導力向上のための取組を積極的に導入することを意識している。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

今後も引き続き、獣医事における最新の情報の把握に努め、これらの情報を交えた教育を行うことで、今、学んでいることがなぜ重要か、また、今後の学修や卒後の社会活動にどのように結びつくのかを理解させた上で、基礎的な知識の重要性を説き、問題解決能力のある人物の育成を目指した教育を展開していくことを目標とする。

9. 添付資料（根拠資料）

シラバス、授業アンケート、學理及び実践、配信動画視聴も含めたFD研修会の参加記録（受講後のアンケート提出）、授業で用いた配布資料、スライド資料及び授業動画